

**<研究会>11. 鑄造冠の気管支迷入(第12回北海道医療大学歯学部口腔外科研究会)**

著者名(日)	川中 政治
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	14
号	2
ページ	235
発行年	1995-12-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00008101/">http://id.nii.ac.jp/1145/00008101/</a>

## 11. 鑄造冠の気管支迷入

川中 政治  
(川中歯科医院)

今回、全部鑄造冠 (7 FCK) を左気管支へ迷入、精密検査の途中でFCKが移動し、食道、そして胃へと移動した経験を報告した。

患者は75歳男性で全身疾患は特になし。主訴は右の冠が痛い、口腔内は7膿瘍を形成、動揺 (+) 打診 (+) 残存歯26本。通常どおり処置し、歯冠修復のため保持付FCK (咬合高径が緊密のため) を作製、試適時に見失い、ひどく咳き込む事態となった。直ちに隣接内科医院へ行き、検査を受け、内科医の診断は、胃の手前、食道に引っかかっているということであった。バリウムをお

願いしたところ、FCKは気管支にあることが判明した。考察、

- 1) 撮影を依頼できる医院、病院を日頃から心掛けておくこと。
- 2) 歯科医師自身が迷入部位を確認すること。  
特に高齢者の場合、咳き込むことなく気管支の中まで入り込む場合がある。
- 3) 患者および家族とコミュニケーションをしっかりとること。
- 4) 保険加入時、保険会社等にも連絡すること。